

日本人監督初の快挙 落合賢氏が DGAより審査員特別賞を受賞

「第15回全米映画監督賞」の授賞式が、11月11日、ハリウッドにある全米映画協会にて行われた。全米映画監督協会（DGA：Directors Guild of America）は、マイノリティーや女性の若手映画監督をサポートするために学生映画賞を設立し、2009年度は若手日本人監督の落合賢氏（26）が審査員特別賞を受賞した。これは、アメリカ映画協会付属大学院（AFI）の卒業制作短編映画『ハーフケニス』の功績が認められたことによる。DGAから審査員特別賞を受賞するのは、今回が日本人初で快挙となった。同賞の記念の盾は『ファイナルデスティネーション』やジェット・リーの『ザ・ワン』などを手がけたアジア系アメリカ人監督を代表するジェームス・ワン監督から手渡された。

授賞後のスピーチで落合氏は、「DGAとAFIに感謝の気持ちでいっぱいです。ただ、僕がこうしてこのような名誉な賞をいただいたのは、僕の監督としての技量というよりも才能あふれるクルーやキャストに恵まれたからだと思います。最高のクルーやキャストと仕事ができたお陰で、僕が実際に監督として立派に果たしたことといえば、撮影時に『アクション』と『カット』と大声で叫ぶだけで、後は座っているだけ

した」と日本人らしい謙虚なコメントで会場を笑わせた。

著名な撮影監督で審査員のジョン・ベイリー氏（ASC）は、「類いまれな撮影技術が物語をサポートし、非常に美しい映像を作り上げている。またマン

ザナーの砂漠のシーンは、とても繊細に描かれてある」と受賞作品の感想を述べた。同作品は、今年度のコダックフィルムコンペティションでも最優秀撮影賞を受賞しており、授賞式は、来年フランスで開かれるクレモントファランド国際映画祭で行われる。

『ハーフケニス』のあらすじ：1945年、ハーフの日系アメリカ人のケンとジョーは、強制収容所で日本人の父親を亡くした。ハーフであるが故に、外の世界にも収容所にもなじめない孤独な二人は、収容所を脱走し、白人の母が住む美家に旅に出る。



受賞の盾を持つ落合賢氏